

東京都八王子市が、大腸がん検診と精密検査の受診率向上をめざし、民間のシンクタンクとの間に、「成果連動型」の委託契約を結んだ上で、オーダーメイド型の受診勧奨を行い、大きな成果を上げたことをお伝えしたことがあります。

このたび、八王子市がこの事業について3年間の成果をまとめ、公開しました。この報告で注目すべきは、成果連動型契約の核心となる成果指標を再検証した点です。

当初、市の分析では、大腸がん検診を受診し、早期の人が見つかった人の医療費を約65万円、検診を受けずに進化した大腸がんを診断された人の医療費を約250万円と

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

# 進行がんは医療費がアップ

大腸がんが別の臓器に遠隔転移した場合、「大腸がん」という病名でなく、「転移性肺腫瘍」などの別の病名が使われることがあります。こうした病名に対して行われる薬物療法も大腸がんに対する治療には変わりありません。大腸がんという病名に対する医療費だけを見ていては、本当の差は分からないはずだなど

段階での医療費は約213万円、転移があるような進化した段階での治療費は約828万円と、差額は約615万円に及ぶことがわかりました。この新たな医療費削減効果を成果指標として、八王子市が実施した大腸がん検診と精密検査の受診率の向上分を評価すると、約4000万円の医療費削減効果があったといふことです。

算出し、この差額を医療費削減効果としていました。

これは診療報酬のデータから、「大腸がん」という病名に関する情報だけを抜き出したもので、間違いではありません。

せん。しかし、私は当初からこの数字に疑問をもっていました。進行した大腸がんでは、「分子標的薬」などの高額な薬剤が使われることが多いからです。

と助言してきました。

今回、八王子市は、大腸が

がんとして診断された場合、身体的にも、経済的にも、より負担が大きくなることを知っておく必要があるでしょう。(東京大学病院准教授)

ら、この差額を医療費削減効果としていました。これは診療報酬のデータから、「大腸がん」という病名に関する情報だけを抜き出したもので、間違いではありません。

せん。しかし、私は当初からこの数字に疑問をもっていました。進行した大腸がんでは、「分子標的薬」などの高額な薬剤が使われることが多いからです。

と助言してきました。

今回、八王子市は、大腸がんとして診断された場合、身体的にも、経済的にも、より負担が大きくなることを知っておく必要があるでしょう。(東京大学病院准教授)